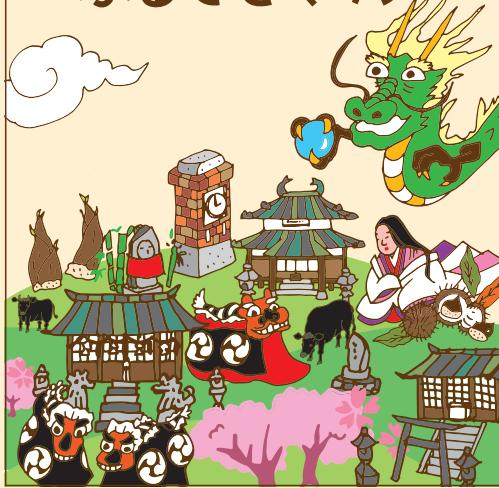


かんざき 神前 ふるさとマップ



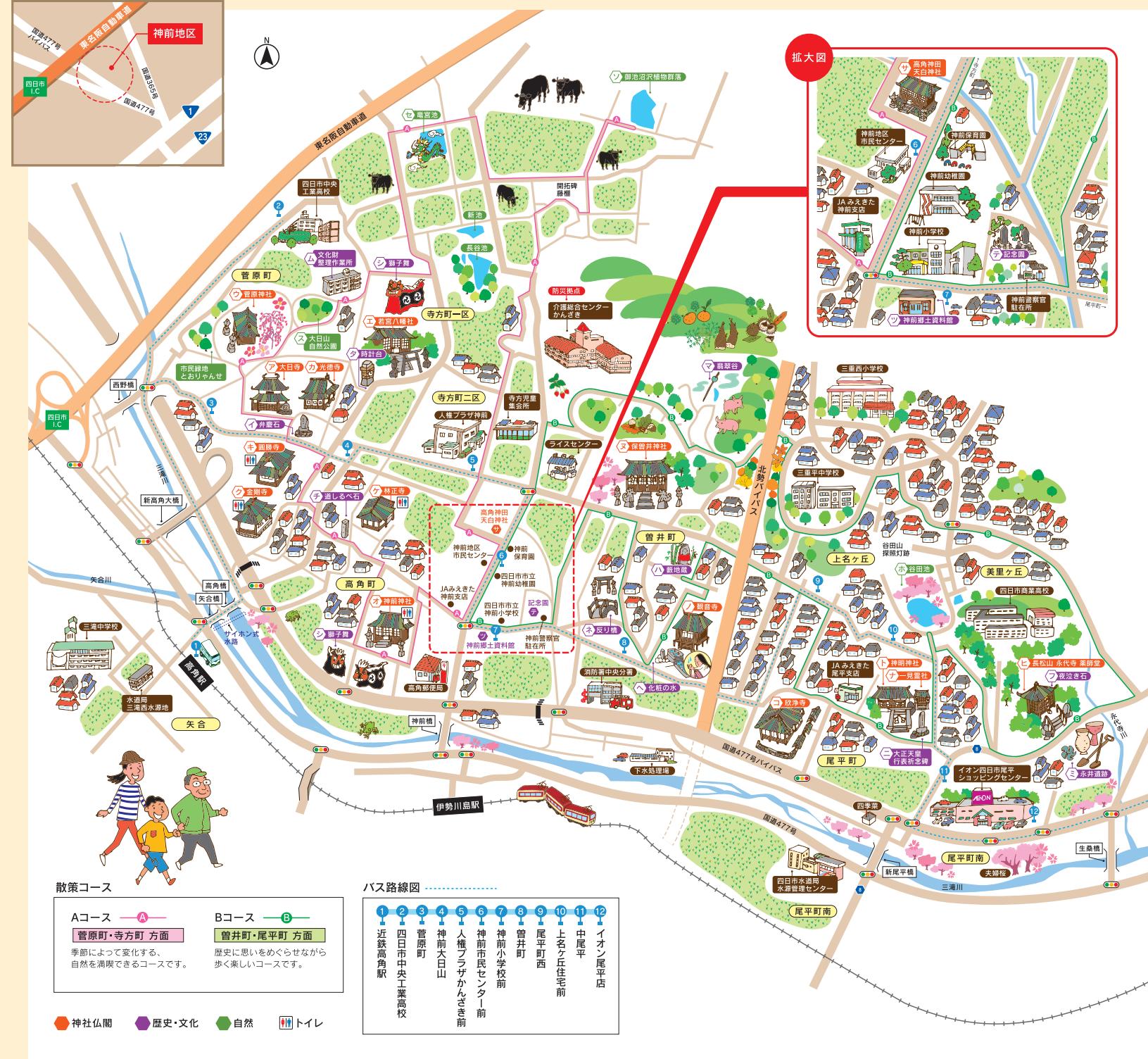
神前地区のあらまし

古くは弥生時代の遺跡が尾平町で発掘されており、早くから人々が住みよい場所であったことを物語っています。春には桜が咲き誇り、夏には田んぼの稲が風にゆれ、秋になると虫の音が耳に心地よく、冬は鈴鹿おろしが身にしみる、そんな四季を肌で感じることができる私たちのふるさとの姿と、この地域を作ってきた先人たちの想いを未来へつなげていきたい…そんな想いで「かんざきふるさとマップ」を発行する運びとなりました。

平成になり道路整備が進み、それに伴う沿線施設が充実し、豊かな自然の中にも生活の便利さを併せ持ち、四日市商業高等学校と四日市中央工業高等学校と二つの県立高校がある文教地区でもある環境は、高齢者や子育て世代にも住みやすいまちとなっています。

2018年3月1日

神前ふるさとマップ編集委員会
かんざき風物詩編集委員会
神前地区市民センター





かんざき 神前 ふるさと マップ



△ 神前地区



真宗高田派
当寺の前身と
推測される長
松山茶代寺は
736(天平8)年、
行基により創
建されたこと
である。延永年間
(1624~1643)前
に真宗高田派
に歸依したと思
われる。本堂の欄間の彫刻
は淨土往生車や、樂器が表されている。
梵鐘は1673(文政13)年の鋳造で、市内でも貴重
なものと考えられる。

かうかくじんでんわんばくじんじゅ
△ 高角新田天白神社



創建は不明、歯が痛いときに豆腐を供えると治ると
いわれている。



◆ 神社仮閣

△ 管原神社

菅原町 580
例祭 10月12日
祭神 岩原道真公
大山祇命
(山の神)



1666年創建といわれる。

その昔、九州大宰府より勧請したといわれ、椿の木
で刻んだ菅原道真公の木像を祀っている。境内に
ある紅梅・白梅は2月頃より見事な花を咲かせる。

△ 宮若八幡社

寺方町 254
大祭 10月9日
祭神 大鷦鷯尊
大山祇命
(山の神)



創建は不明。1871(明治4)年から残されている記
録によれば、明治40年に大字寺方字北浦の山神社
(大山祇命)を保井村の村社・宮若八幡社に合祀し、現在の宮若八幡社となつた。

△ 獅子舞

寺方町 高角町
寺方町の獅子舞は山本流で、伊勢の國の宮橋神社を
本拠地とし、舞は天皇安寧の力の身とされているので、
雄獅子である。



高角町の獅子舞は吉川流で、鈴鹿一色町の波波岐奈加等神社本拠地とし、雄・雌二頭の獅子舞の特徴である。いざれ
も、舞は異なる中折の後、獅子舞奉行会を結成して舞している。10
月の例祭の日に、それぞれ氏神様へ獅子舞を奉納される。

かにわよさくらんこうち
△ 大日山自然公園

寺方町
高角新田



創建は不明、歯が痛いときに豆腐を供えると治ると
いわれている。

ア 高角山 大日寺

寺方町

天台宗

平安時代後期の作とされる本尊「金剛界大日如來像」
は木造としては国内第二位の高さといわれる。(四日市
市有形文化財)また、約150年前に製造された長さ4m、
幅約3mの墨樂団が所蔵されており、毎年旧曆5月15日
(現在の5月15日)に御開帳される。建立当時は七堂伽
藍を配した壮大な規模であったと考えられている。直木
貫作(伊藤桂一(1917~2016)の生家であり、境内には
彌陀碑が建てられている。



寺方町

イ 卍弁慶石

高角山大日寺の参道入り口にある門牌には左右に渡って一本の太い筋が
入っている。その昔、当の住職が大日寺の門牌を自然石で作りたと考え
ていたが、良い木も見つかず費用も回り固り困っていたところ、その石が
根本山である比叡山延暦院まで伝わり、それを運いた怪力怪僧の弁慶が
門牌に伏さわしい石を見つけて藤繩で縛り、伊勢の国寺方村まで背負って
きた。石を落ろしてみると、なんと藤繩の跡がついていたとの伝説がある。

寺方町

ク 金剛石

高角山大日寺の参道入り口にある門牌には左右に渡って一本の太い筋が
入っている。その昔、当の住職が大日寺の門牌を自然石で作りたと考え
ていたが、良い木も見つかず費用も回り固り困っていたところ、その石が
根本山である比叡山延暦院まで伝わり、それを運いた怪力怪僧の弁慶が
門牌に伏さわしい石を見つけて藤繩で縛り、伊勢の国寺方村まで背負って
きた。石を落ろしてみると、なんと藤繩の跡がついていたとの伝説がある。

ト 神明神社

尾平町

天保2年9月4日

例祭 10月7日
祭神 天照大御神、天手力男神、品陀和氣命
萬葉歌聖津御比賣神、天太玉命 建御佐之命
天惠命、大山祇命(山の神)
彦坂都事事頭之男命、伊邪那岐命 速玉勇命

創建は不明。もと高柳(尾平町)南にあり、1688(元
禄)年ごろ現在の場所に移ったとの記録がある。
拝殿の左側にある「拂せ石」は右から上、左
は首から下の痛みや腫れに効用があるといわれて
いる。

寺方町

ナ 一見靈社

(神明神社境内社)
尾平町
創建は不明であるが、今
から約千年前に高柳(尾
平町)南にあったものを
現在の場所に移し奉祀
したと伝えられている。
一見一族の氏神として奉
られている。一見一族は
清和天皇(859~876)の子孫と伝えられている。

寺方町

△ 大正天皇行幸記念碑

尾平町

1912(明治45)年、大
正天皇が皇子であった
頃、陸軍參謀演習視察
の際、谷田山(現在の美
里ヶ丘)に立ち寄った記
念碑。美里ヶ丘庄成にと
もない現在は神明神社の
東角に移設されている。

寺方町

△ そり橋

寺方町

1786(天明6)年に
保井神社の参
道の入り口にかけ
られた石造りの太
鼓橋。文献によると、太鼓橋の形は、足元に注意し
ながら渡ることで参詣者の気持ちを落ちかせ
ため、渡りにくくなっている。何度もこの
修理で幾分変わっているが、地域の人により守り
続いている。

寺方町

△ 保井山 観音寺

寺方町

臨濟宗
妙心寺派
高角山 観音寺
寺方町
浄土真宗
本願寺派
大日寺御藍の一部であつた
当寺は、1567(永禄10)年の
秋、織田信長の兵火によって焼打ちに逢い、慶長年
間(1596~1615)に当時の天觀、専喜が本願寺に
帰附し、天台宗より浄土真宗へ転じ、光徳寺と名
を改め、その弟子懶教宗に至る。無住院の期間を
経て1681(寛永8)年に覚玄と名乗る僧侶を住職
にむかえ、現在に至つている。

寺方町

△ 長松山 永代寺 薬師堂

寺方町

現在の県立四日市
商業高等専門学校の南東に
ある仏堂で、その創
設は天龜時代(約1300年前)
とされており別院を
有する格調のある
寺院であった。本
堂は十一面觀世音菩薩で、楓
11年ごとの開帳と
春秋の彼岸会などがあり、法事
が開催される。宝物としては、地獄極楽の物語が描かれた「往生集繪図」があり、御開
帳の折には説教師が節を付けて語るお絵描きが行われる。

寺方町

△ 夜泣き石

尾平町

その昔、尾平町の大庄屋が医業の傍ら東
光龍観音寺の寺守りを兼ねていた。ある夜は、
やはりの患者が地獄菩薩の功徳を熱心に説き
、観音寺の境内に寝泊りで利益があるお地
蔵様をお祀りしようではないかとの相談をも
ちかけた。患者の話に動かされたときには涙き
ながら訴えた。これが毎夜続いたため、庭に出て
石を立ててみたところ、石は主に夜泣くようにな
ってしまった。主は寺の住職に相談し、石を
永代寺に安置する。永代寺には赤ちゃんを産んでもお乳が出
なくて困っているお母さんにお乳を授けてくださる薬師様がいると言われている。

寺方町

△ 豊翠谷

寺方町

平安の頃、一
条天皇が唐の
玄宗皇帝より
贈られた翡翠
の玉かんしゃ
を、妃に仕え
る女官・和式部
式部の顔が取
れることを喜び
式部を褒めたり
、式部は凡人の
自分の持ち物で
ないことを説
いた。和式部の
夫は、大日山城
に構えていた平氏の武将、若
十郎永舟はこれを知り、このかんしゃを我が物に
するため東光龍観音寺に火をかけ、宝物を奪
い取った。しかし、嵩のあらわんさんの箭が引けたり、
奥方が気に入れてしまい、自分が重病のことを思
ひ、宝物を寺に返した。その後、
観音寺を守護した道場禪師が人間の欲望を起こさ
せる翡翠の玉かんしゃを北山の谷に埋められ、そ
の場所を翡翠谷と呼ぶようになった。

寺方町

△ 永井遺跡

尾平町

1972(昭和47)年に尾
平町の区画整理で
発掘調査された。弥生時
代の遺跡で、
2300年ほど前の住居跡やお墓が見つかって
いる。現在は既に廃止され大半は自然地とな
っているが、一部は児童公園として跡を保存し、記念碑が
建立されている。なお、出土品は考古学的整
理作業所(寺方町)に保存・展示されている。

寺方町

△ 文化財整理作業所

寺方町

四日市市教育
委員会が市内
で文化財調査を
行った跡場所
から出土した遺
物の整理作業
を行っている施設です。
収蔵庫には様々な遺物が収蔵されています。事前に教育委員会へ申請することで、施設や収蔵され
ている遺物の見学をすることもできます。

寺方町